



網走養護学校だより

令和3年度
第 6 号
(通217巻号)
3月4日発行

TEL 0152-48-2137

令和3年度もご理解とご協力に深く感謝申し上げます

校長 上 村 喜 明

卒業式を迎え、卒業生を始め、在校生児童生徒の成長を感じつつ、これからのステップアップへ期待を込めて送るこの季節。令和4年となり、今年こそは新型コロナウイルス感染症の終息を願いつつ、学校づくりの方向性を思い浮かべているところです。まだ、コロナ禍にあり、完全に元に戻ることは難しいと思われますが、「with コロナ」への移行も考えつつ、新しい取り組みや工夫をしながら取り組んでいく必要が出てくるのではないのでしょうか。

今年度もコロナが継続し、昨年度よりも多くの感染者等が見られる中、保護者の皆様はじめ、地域の皆様のご理解とご協力をいただき、児童生徒の健康・安全を第一にコロナ対策を始め、行事や活動を実施することができましたこと深く感謝申し上げます。

また、今年度の学校評価アンケートについてもご提出ありがとうございました。次年度に向けた現時点での改善も含めてお伝えいたします。

★★★ 令和3年度学校評価の結果から ★★★

皆様には、本年度も学校評価アンケートにご協力いただき、感謝申し上げます。学校評価は年度の教育活動や学校経営について評価し、学校としての組織的・継続的な改善につなげていくものです。

【保護者アンケート】

- ・回答が73%
- ・26項目中19項目で昨年度の結果を上回っている。
- ・評価が2点台の項目はない。保護者評価は教職員評価よりも評価点が高く、評価基準を3.20点に設定した。
- ・評価が3.20点以下の項目は、

項目17	「関係機関と連携しながら、適切に進路指導を行っている」(3.09)	*後半に記述します
------	-----------------------------------	-----------
- ・評価が3.40点以上の項目は、

項目1	「①児童生徒の健康・衛生・疾病予防（コロナ含）に努めている」(3.42)
項目6	「②教科別指導を適切に実施し、効果を上げている」(3.40)
項目7	「②教科・領域を合わせた指導を適切に実施し、効果を上げている」(3.44)
項目8	「②自立活動を適切に実施し、効果を上げている」(3.52)
項目11	「②食育・食事の指導を適切に実施し、効果を上げている」(3.46)
項目12	「③一人一人の教育的ニーズに応じ、「個別的教育支援計画」を作成し活用している」(3.42)

【保護者評価（3.40以上）上位評価項目】

上記の高い評価をいただいた項目については、①「コロナ対策などの健康安全・危機管理」②「教育課程」③「個別的教育支援計画」④「児童生徒への関わり方」などの項目に高い評価をいただきました。①については、コロナ感染対策ガイドラインを作成し、厳しい状況においても対策を緩めることなく取り組んできたことが評価をいただきました。これについては保護者の皆様のご理解とご協力があったからこそです。次年度もコロナの状況はもとより、その他の危機管理等についても校内で協議し、児童生徒の健康安全を確保するよう努めて参ります。②については、今年度教育課程の見直しを進めて参りました。次年度も継続して検討を進めていく部分もありますが、より一層効果を上げる

ことができるよう、教員研修や実践の積み重ねを続けていきます。また、食育や食事については、ご家庭との連携も重要であることから保護者の皆様と情報を共有し、児童生徒の健康にも気を付けていきたいと思っています。③については、担当部署が中心となり、教育課程や個別の指導計画・個別の教育支援計画の見直しを図って参りました。評価にも挙げられている「個別の教育支援計画」については、保護者や関係機関のご協力を得て、より一層「活用」いただけるように発信をしていくことが必要であると考えています。④については、児童生徒への関わり等にもつながる項目であり、児童生徒とかかわる人はモデルにならなければなりません。ご家庭では保護者、学校では、教員や寄宿舎指導員です。言葉遣いや態度など、児童生徒の手本となるよう、研修等を通して今後もさらに向上を目指していきたいと思っています。

【教職員アンケート】

- ・ 回答率 100%
- ・ 26 項目中 7 項目で昨年度の結果を上回っている。
- ・ 評価が 2 点台の項目は 7 項目であった。
- ・ 評価が 2 点台（3.00 点以下）の項目は、

項目 3	「①医療的ケアについて理解し、適切な対応をおこなっている」(2.84)
項目 6	「②教科別指導を適切に実施し、効果を上げている」(2.97)
項目 7	「②教科・領域を合わせた指導を適切に実施し、効果を上げている」(2.97)
項目 10	「②一人一人の社会的・職業的自立に向け、キャリア教育を適切に進めている」(2.84)
項目 17	「③関係機関と連携しながら、適切に進路指導を行っている」(2.85)
項目 19	「③地域への情報提供を意識し、積極的に情報発信に努めている」(2.81)
項目 20	「④積極的に研修に参加し（ICT の授業への活用を図り）授業力や指導の専門性の向上を図っている」(2.97)
項目 24	「⑤効率よく業務に当たり、時間外勤務削減に取り組んでいる」(2.78)

【教職員評価（3.00 以下）下位評価項目】

①の「医療的ケア」については、少しずつ医療的ケアの補助を行う教員が増えていますが微増に留まっています。引き続き、道教委研修、校内研修への参加を積極的に行うよう努めて参ります。②の「教育課程」については、保護者評価は高いものの、教職員は教育課程の見直しや工夫を進めており、さらに向上を意識しています。児童生徒一人一人に応じた指導内容、方法など令和 3 年度と 4 年度は見直し、検証の年度と考えています。③「進路指導」「専門性」については、進路指導においては、小学部から中学部・高等部と進行するにつれ、その生活年齢・発達段階時の進路指導をどのように進めることが必要かについて評価が低かったです。専門性については、授業研究や外部講師を招いた研修会、各実践の交流など、様々な研修に取り組んでいます。研修の成果がしっかりと「生かされているか」と教職員自身が振り返りをしている状況により、「自分はまだまだ高めないと」考える教員が多いと考えます。児童生徒が「変わった」「積極的になった」「少しずつできるようになった」など保護者と教職員で情報共有し、児童生徒のわずかな成長についても語り合うことが大切であると考えています。また、④ICT が導入されたことにより、得意な人、あまり得意ではない人との評価も分かれていることを感じます。今後は ICT の実践と今までの教材・教具（ICT 以外）をどのように児童生徒の状態に応じて組み合わせて指導していくことが有効なのかを検証しつつ、取り組んでいくことが必要であると考えています。

- ・ 評価が 3.20 点以上の項目は、

項目 1	「児童生徒の健康・衛生・疾病予防（コロナ含）に努めている」(3.25)
項目 14	「個人情報取り扱いに十分注意し、事故防止に努めている」(3.23)
項目 15	「安全管理が十分行われている」(3.26)

特に評価点が保護者評価 3.20 点以下、教職員評価 3.00 点以下で低かった項目について、次に改善策等を示しています。

【考察】

《保護者評価》

令和2年度の下位評価については、4項目挙げられておりましたが、今年度の評価を見ますと、1項目となり、保護者の皆様にご理解をいただき、高評価をいただきました。

《教職員評価（自己評価）》

教職員評価は教職員が各自の取り組みについて評価をした結果ですが、下位評価が令和2年度は3項目だったのに対し、今年度は8項目となっています。教職員が自身の評価を低く見ているという結果になりました。コロナ禍にあり、児童生徒の健康安全と教育活動等の両立での自信の低さが見られると分析しました。しかし、昨年度に対し今年度は、様々な取り組みにチャレンジしています。児童生徒の変容も見られることから、自信をもって取組を発信し、さらに改善していくことが必要であると考えます。

【保護者評価（3.20 以下）・教職員評価（3.00 以下） 共通下位評価項目】

項目 17「関係機関と連携しながら、適切に進路指導を行っている」

- ・今年度もコロナ禍による感染者の拡大、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が昨年度よりも発令され、各施設や関係機関との行き来が思うように行かない状況がありました。進路指導については、小学部段階から始まっており、中学部、高等部と継続して情報共有や発信をしながら卒業後に向けて取り組むことが重要です。保護者を含め関係する機関が情報を確認しながら進めていくことが必要です。

《令和4年度に向けて》

- ・コロナ禍において、相手先の状況等も考えながら、関係機関とオンラインなどの方法も活用し、できる限りの連携を進めるようにする。
- ・校内では、小学部・中学部・高等部と年齢段階に応じた情報共有の在り方を探る（情報共有と発信）
 - ・管内の特別支援学校との連携を高める。
（管内4校の特別支援学校進路担当同士のつながりの強化など）
- ・PTA 研修と連携して、卒業生保護者などを講師に研修会を実施する（状況を捉え、参集またはオンライン活用など）。

【教職員評価（3.00 以下） 共通下位評価項目】

項目 2 4「効率よく業務に当たり、時間外勤務削減に取り組んでいる」

- ・今年度もコロナ禍により、感染基本対策の実施、中止、延期等による行事や教育活動の再構成、計画など、その都度状況が変わるたびに対応してきました。来年度もコロナの収束には時間を要すると考えます。ただ単に「働き方改革」だけを唱えず、できることからスクラップ&ビルドしていくことが必要と考えます。
- ・私たち教職員が自らの授業や指導方法、教育活動等を磨き、その人間性や創造性を高めながら、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことが重要であると考えています。
- ・次年度も少しでも教職員の業務遂行の時間がとれるよう、次の取組を継続し、また、新しく追加し進めていきます。
 - ☐ 毎週火曜日をノー会議ディに設定し、担任業務、分掌業務、授業準備や教材研究など、個々の業務推進に当てて活用する。
 - ☐ 個別の指導計画作成期間の設定
 - ☐ 月2回の定時退勤日を金曜日に設定
 - ☐ 職員朝会は基本月・金に縮小し、朝の時間を確保する（学部の打合せを優先）。
 - ☐ 一部休憩時間の変更
 - ☐ 職員会議の精選

※《PTA 活動》 今年度も、コロナ禍により多くの PTA 活動が実施できなかったため、PTA 活動の項目は学校評価項目には入れておりません。

しかし、今年度は、少しずつではありますが活動に取り組んでいます。目立った大きな取組はできませんでしたが、コロナ禍に合わせて、おやじの会の「いも拾い」、PTA 研修「障害基礎年金について」おやじの会・PTA「フォトコンテスト 2021」を行いました。コロナ禍での感染対策やそのときの状況により取り組めないことが多いですが、次年度も方法や内容を工夫して、取り組みたいと考えています。ご協力をお願いいたします。

保護者の皆様、学校評価へのご協力ありがとうございました。

今年度の学校評価等を踏まえ、次年度に向けた内容を提示させていただきました。

コロナ禍という状況の中、保護者の皆様をはじめ、本校に関わる多くの関係機関の皆様、地域の皆様にご理解、ご協力、ご支援をいただきながら一年間取り組んでまいりました。

これらの課題への取組を通して、改善を図り、校訓にもあるように「明るく、元気に、呼人で学ぶ」子ども達が育つ学校にしたいと考えております。

令和3年度、本当にご迷惑、ご負担をおかけいたしました。また、多大なるご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

この2年間、本校の教育課程や教育活動等の見直しをしてきました。令和4年度はその改善してきたことを実行していく年度となります。

コロナの状況も考えながら対応し、保護者の皆様や地域の皆様と一緒に取り組んだり、参加したりできるような取組を増やしていきたいと思っております。

ぜひ、次年度も引き続き、ご理解とご協力のお願いと学校・PTA の取組にご参加いただきますようお願い申し上げます。

= TOPICS =

《道教委事業「ICT を活用した学びの DX 事業」》

今年度、本校は、道教委事業「ICT を活用した学びの DX 事業」を受け取り組みました。

本校の道教委事業を含めた ICT、遠隔教育の実践は次のとおりである。

取 組	対 象	使用機器	担 当	日にち
校内研修	特セン（講師）	ZOOM	研修部	5月下旬
教育相談	小中学校等	ZOOM	支援部	6月中旬～
特別支援教育研修	幼保・学校等	ZOOM	支援部	6月下旬
ボッチャ交流	稚内養護	ZOOM	小5・6年	7月上旬
夏季研修会（3回）	管内特別支援学校	ZOOM HYBRID	研修部	8月上旬、9月
訪問教育	美幌療育病院	ZOOM	訪問教育	9月上旬～
全道肢体不自由校体育大会	全道肢病校	ZOOM	中学部	8月下旬
寄宿舍交流	函館養護	会議システム	寄宿舍	10月上旬、2月
呼人小との交流（3回）	呼人小中学校	ZOOM	小学部	10月下旬～11月上旬
個別懇談	保護者	ZOOM	小中高等部	10月（試行実施） 2月（希望者実施）
大空高校との交流	大空高校	ZOOM	高等部	11月上旬
H アーチェリー交流	真駒内養護 拓北養護	ZOOM	中学部	年2回ずつ
宿泊研修の事前学習	校内（QR 活用）	タブレット	小5・6年（生単）	11月
フォトコンテスト 2021	校内・保護者、関係機関	タブレット HP・楽メ		7月～12月
PTA 研修会	市年金係（講師） 保護者	ZOOM	PTA	12月 『障害基礎年金について』
職員会議	校内（各職員室）	ZOOM	教職員	通年

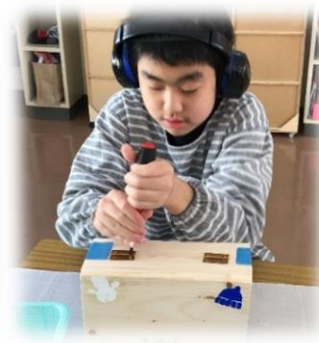
この ICT を活用して、主に、交流学习などを中心に行いました（この他、各学部、学年、学級によっては児童生徒の状態に合わせてタブレット等を活用しています）。

コロナ禍以前においては、北海道は広大で、本校の児童生徒が道内の特別支援学校の友達と一緒に活動したりすることは限られていました。さらにここ数年コロナ禍になり、さらに狭くなる中、この状況を改善する方法として、オンライン等を活用した、他の学校の友達との交流です。実際に会い交流できることが一番良いのですが、今回のような状況により、移動ができない時は、その機会を少しでも設定していく工夫が必要です。本校もさらに研究・研修し、ICTの活用が本校の児童生徒に応じた使い方や多くの友達や離れた地域とつながり、児童生徒の視野を広くするための一つになるように取り組んでいきます。

卒業制作の紹介

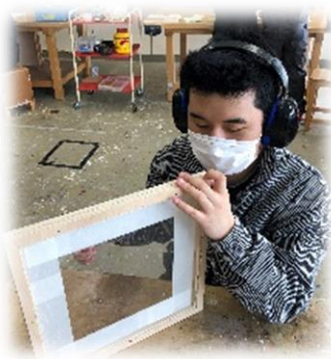
小学部 ～ツールボックス～

小学部 6年生は卒業制作として、「ツールボックス」を作成しました。昨年の学習で使用したのこぎりを、今年度も使用して、木材を切って材料を用意していききました。二人とも身体が成長して力が強くなったためか、昨年よりも素早く上手に木材を切ることができました。その後はボンドや絵の具、ドライバーなどの道具を使い、作品を仕上げていききました。初めて使用する道具もありましたが、お手本を見ながら自分たちで活動することができました。完成後、早速中に文具などを入れて使ってみると、二人とも満足げな様子でした！！中学部に進学したら、このツールボックスを使っていろいろな学習に取り組んでもらえたらと思います。（文責：佐々木）



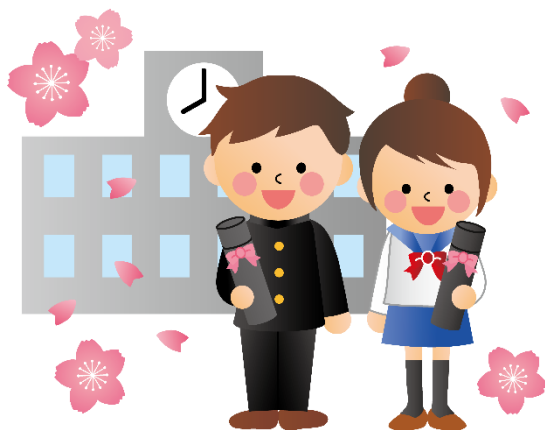
中学部 ～フォトフレーム～

中学部3年生の5名で、フォトフレームを作成しました。木を切る、やすりをかける、ドリルで穴を開けて釘をうつなどの工程を4回の授業で取り組んで作成しました。これまでの網走養護学校での思い出と感謝の気持ちを書いた手紙と一緒に飾れるように工夫してあります。3年間、作業学習で学んだ技術を生かして生徒が一生懸命に作りました。（文責：北原、大澤）



高等部 ～時を刻み、後輩に思いをたくす～

高等部の卒業生6名は卒業制作として、『時計』と『販売会の看板』を製作しました。『時計』では、作業学習で学んだ技術を生かして、紙すきで台紙を、くるみボタンで文字盤を製作しました。3年生全員の記念写真も入れ、とても色鮮やかな作品となりました。学校生活の思い出を今回製作した『時計』とともに刻んでもらえたらと思います。『販売会の看板』では、筆やローラーを使って色づけをしたり、美術で学んだ技法スパッタリングを取り入れたりしました。1人1枚学校への感謝を込めて作品を製作しました。また、「道徳」の授業で、お世話になった方々への感謝のメッセージ動画を撮影。卒業式は沢山のありがとうで溢れることと思います。(文責：大田、光永)



編集後記

今号は、学校長挨拶および学校評価の結果と各学部の卒業制作についてお伝えしました。卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、在校生のみなさん、修了おめでとうございます。新年度も、児童生徒の元気な姿や一生懸命に学習に取り組む様子をお伝えしたいと思います。

令和3年度の学校だよりの発行も、今号が最終号となりました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの流行による行事の変更・中止が相次いだ1年でしたが、児童生徒の日々の頑張りと学校の様子を、今年度最終号までお伝えすることができました。

今年度も本校の教育活動にご協力頂き、心より感謝申し上げます。次年度もどうぞよろしくお願い致します。(文責：塩越)